

UILI東京会議及び国際技能試験の近況

背景

社団法人日本環境測定分析協会(日環協:当社は1973年に入会)は、2001年に、民間試験所の国際的な連合組織であるUILI(Union Internationale des Laboratoires Independants)に加盟しました。日環協は日本から参加している唯一の協会で、当初より、当社の田畑会長(日環協名誉会長)が協会を代表して活動しています。

UILIは、分析業界における試験所と科学コンサルタントに国際交流の場を提供することや、民間試験所団体の国際的地位を向上させることを目的として、1960年にフランスで設立されました。現在、26カ国から約850の試験所が加入しています。役員会は、日本、アメリカ、カナダ、オランダ、ベルギー及びスペインの6カ国における各国分析協会の代表者で構成され、役員会議が年2回、総会が2年ごとに行われています。

東京会議

2007年3月22～23日に東京でUILIの役員会議が開かれ、当社からは田畑会長、松村執行役員(環境創造研究所)、光本執行役員(海外事業本部)、浦元(秘書室)が参加しました。同日のカントリーレポート(各国業界報告)では、環境省の水・大気環境局長竹本和彦氏より日本の地球温暖化対策についての講演をいただき、約50名の日環協会員が参加しました。また、独立行政法人産業技術総合研究所計量標準研究部門(つくば市)と民間試験所2社(千葉市)を視察するラボツアーが行われました。

国際技能試験 - 第1回の結果と第2回の予定 -

2005年3月のベルギー・ブリュッセル会議において、田畑会長は業界初の国際試験所間比較を提案しました。これは、1つの試験所で得られたデータを世界中で受け入れられるようにする仕組み「One-Stop-Testing」の実現を目指したもので、多国間でのデータ交換が急増する今日においては、大変意義深いものです。

2005年末にはその第1回試験が実施され、日本、アメリカ、カナダ、スペイン等から、235に及ぶ多数の機関が参加しました。

2007年3月の会議では、日本から、試験の報告値を測定方法ごとにグルーピングして統計解析を行った結果(横浜薬科大学教授・NPO法人環境統計統合機構の岩瀬晃盛先生による指導)が発表されました。オランダの協会からは、試験に関連する事務手続き(参加申込・参加料支払い、データ入力、報告書・参加証の発行)をウェブ上で行うソフトウェアが紹介されました。

第1回試験では、土壌と底質の金属4元素が対象とされました。第2回試験は今夏に実施される予定で、土壌を対象試料とし、試験項目は多環芳香族炭化水素16化合物及び金属8元素が提案されています。

その試験結果にかかわる討議が、2007年9月のベルギー・ブリュッセル会議で行われる予定です。

〔参考〕

『UILI』ホームページ (<http://www.uili.org/>)



UILIの役員会議(左の写真中の、右が議長マケンティUILI会長(カナダ代表)、1人おいて当社の田畑会長と浦元)